

第13回目のGIS News! です

今回は、vol.12でチラッと出ました、「リモートセンシング」について、具体的にご紹介させていただきたいと思います。それでは、最後までお付き合いください。

リモートセンシングとは？

リモートセンシングとは、対象物から反射（放射）される電磁波などを利用して、様々な情報を取得する技術のことを指します。

前回までにご紹介しました衛星画像と同様に、広範囲な領域の情報を一度に短時間で取得することができ、定期的な観測を行うことも可能です。

この技術は、広範囲（都市・地球規模）の環境評価を計測する手法として有効だと考えられておりますが、狭い範囲を把握する技術としても有効であるとして、各方面で大きく注目を集めています。

幅広い応用分野

陸域

植生分布調査、森林資源調査、森林等火災監視、森林・農作物病害虫管理、土壌分類、土地利用状況調査、河川・湖沼の汚染状況調査、etc・・・

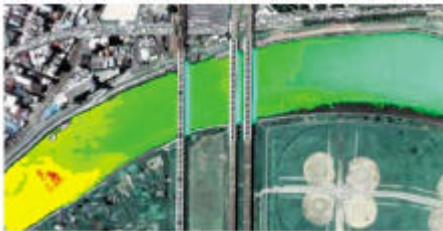
海域

水質・汚濁状況調査・監視、海面水温分布の調査、海流の流況調査、プランクトン・赤潮調査、etc・・・

空域

大気汚染の調査・監視、オゾン層の濃度・分布の観測、大気循環の調査、etc・・・

これら以外にも、多岐にわたる分野でリモートセンシングデータの応用が可能となっています。



河川の汚濁状況を示しております。緑色から赤色に向かって汚濁度が高くなっていることがわかります

リモートセンシングとGIS

リモートセンシングとは結果を知るための技術であり、得られた解析結果だけでは原因調査や将来予測はできません。この不足点を補うのがGISです。

解析により得られた情報を多様な地図データと組み合わせることで、様々な条件を加味することが可能になり、詳細な分析や今後の予測を行うことができるようになります。

次回のGIS News!

次回は7月23日発行予定です。よろしくおつき合い下さい!

Geographic Information System

記事：協同組合山形県地理情報センター 石山 発行日：2001年7月9日

